B—43　生体機能によるボディの考察とアームホールの構成及び袖の構成について

岡山就実短大　　藤井美枝子

1. 人体は立体であるばかりでなく，種々な曲線をもち，更にそれが動きます。動くにも，単に動くのではなく，伸展，収縮，偏位，移動というように，非常にデリケートな動きをもっております。この立体や曲線，そしてその伸展をどう平面化し，立体化し，伸展させるかが洋服製作の意義であり定義であると私は思っております。立体や曲線を平面に表現することは，私共の生活の中の器物，建築物の図面が設計図として，いささかのくるいも許さないきびしい学問がございますように，私共の被服製作も人間という動く器物を，十分理解した上で指導することができるならば，パターンにたよるような技能教育重点でなく，パターンを作る学問こそ，被服の基礎学と考えることができるようになるのではないかと研究をこころみました。

2. A現在一般に使用されている原型でボディを作る。B生体機能図によるアームホールとAの関係について，C基礎袖となるホールの構成について，D運動機能図と，原型袖との比較について，Eラグラン袖の伸展量について，F襠入袖の伸展化について

3. 非常に着やすく，機能的であること，生徒の創作が簡単にまとまること等。